

平成28年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成28年9月19日（月・祝）
午前9時30分～午後4時10分
場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、兼平委員、
西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、
宮川委員、木田委員
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、齋藤主査、
阿保主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審査項目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●4：豊田小学校通学路排雪事業／豊田小学校父母と教師の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：現在除雪作業に取り組んでいる中で、一番の課題は何か。

A：機械の整備が一番の課題である。コミュニティ助成事業を活用して除雪機を購入している地域もあるし、機械があれば除雪活動をやってみようと考えてくれる地域もあるのではないと思う。また、今はローダーを使っているが、それが使えなくなった場合にどうするかを検討しているところである。

Q：豊田地区内の町会が、PTAの活動に対して何らかの方法で支援したり、何か関わりを持ったりしていることはあるか。

A：町会の運動会やペタンク大会に子どもと参加したりしている。そのような場でPTAのOBとも交流があるため、OBが学校の運動会の準備を手伝ってくれたり、この除雪活動でも軽トラックを貸してくれたりという雰囲気ができている。このようにみんなで集まれば、この活動は難しいことではないと伝えたいという思いでやっている。

【主な意見】

- ・道路の脇に寄せ雪が固まっていて、子どもたちが道を通るときに困っている姿をよく見かけるので、このような活動がほかの地域にも広がればいいと思う。
- ・PTAに関わりがない地域の人が、活動に必要なものを貸してくれるなど、さまざまな

かたちで活動に協力しており、地域の中で協働している雰囲気が伝わってくる。

- ・子どもたちの安全確保のための事業であり、継続して実施していく必要があるので、実施する側も十分安全に考慮していただきたい。

【採択結果】

合計点 81.1 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点 齋藤（秀）委員は審査から外れる

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合計		81.1

● 2：冬季に春待つ土造りプロジェクト／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年実施した事業では、でき上がったたい肥の一部を回収していたが、今回も同様に回収するのか。

A：今回はたい肥そのものは回収せず、活動報告として写真を提出してもらおう。写真は、2月に行われる市民ボランティア交流まつりで展示しようと考えている。

Q：1つのダンボールコンポストに約3,000円のコストがかかっているの、出来上がるたい肥が割高のような気がするが、団体ではどのように考えているか。

A：先進地域では、生ごみたい肥を使用した農産物は質が良く、高く取り引きされているため採算が取れていると聞いている。また、税金を使ってごみを処理するのはもったいないが、ごみからたい肥を作ることができると、ごみも減っておいしい野菜ができるという、資源循環型の社会が一番地球にやさしいといった趣旨で事業を行っている。

Q：どのような手順で行うかがわかるような、取扱説明書のようなものは用意してあるか。

A：保育園で事業を実施したときは、出向いて講習を行っていたため、直接説明をしていたが、今回は、各家庭でわかるような文書を添付する予定である。

【主な意見】

- ・弘前は、ごみの排出量が多いので、まずは生ごみから減らしていこうという趣旨を分かってもらうためにも、活動の趣旨が伝わるようなシールを使用するダンボールに貼るなど、市民に対して啓発することにも力を入れていただきたい。
- ・ダンボールコンポストのパッケージを作る作業に、複数の授産施設が関わっており、社会福祉の面でも貢献していることが素晴らしいと思う。
- ・市でも、その他の紙や雑紙をリサイクルしていこうとアピールし、取り組みが始まっているのに、ごみが減らないのが現状で、ごみ問題には市全体がまじめに取り組んでいく必要がある。このような活動が広がって、結果的に燃やせるゴミの量が減るように頑張っていたいただきたい。

【採択結果】

合計点 66.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合計		66.3

● 9 : 小学校体育支援事業～運動大好きプロジェクト～ /

特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : この事業が成功すれば、将来的に教育委員会で事業化するようなことも考えられるのか。

A : 体育だけに特化することは難しいが、教育委員会としては、地域と連携して子どもたちの授業を支えていくような事業を考えているところだと聞いている。行政の制度として、予算化されるようになるまでに事業をPRしながら、頑張って実績を作っていきたいと思う。

Q：スポーツ少年団が抱えている悩みと、この事業でやろうとしていることで結びつきそうなところがあれば教えていただきたい。

A：市内のスポーツ少年団は、運営母体が保護者になってしまっているが、1次募集で採択された小規模校のゲンキッズ事業を通して、放課後の子どもたちのスポーツ支援を、保護者だけでなく学校の先生や地域の人が運営していくという形を作りながら、今回の事業で学校体育の支援をしていくことができれば、子どもたちのスポーツ環境をかなりの面で支援できると思う。

Q：学校体育の授業に、地域の力を入れていった効果を、どのように検証するのか。また、モデル事業として、どのように周知していくのか。

A：数字でわかるようにアンケートを取ることも考えていくが、実際に授業の様子を見てもらうことが一番いいと思うので、研究授業のように、いろいろな学校の先生方が見に来てくれるような場を作っていけるように考えていきたいと思う。

【主な意見】

- ・小さな頃から「体育が嫌い」という子どもがいるのを見てきているので、体育嫌いを作らないような授業への入り方を実践していただきたい。
- ・学校の先生だけでは十分な教育の環境を与えるのが難しい場合、地域の力で補って良い環境を作っていくことは大変良いことである。教育委員会でもその方向性を探っていこうと考えているとのことだったので、非常に頼もしく思っている。
- ・外部から授業を補助する人が入ってくることによって、先生と外部の人の間に軋轢が生じたり、学校の先生が努力しなくなり、なんでも外部の人に任せるようなことが起きたりということにならないか心配である。

【採択結果】

合計点 83.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合計		83.8

● 10 : 第3回弘前城リレーマラソン 冬の陣/特定非営利活動法人 スポネット弘前
【質疑応答(抜粋)】

Q : 各賞の順位付け賞品一式として、10万円を予算計上しているが、具体的に何チームくらいに賞品をあげる予定か教えていただきたい。

A : 参加してもらって何も賞品がないのもかわいそうなので、参加賞とは別に、例えば「頑張ったで賞」のような小さな賞も作って、ほぼ全チームに行き渡るようにしたいと考えている。

Q : 運動しない人に運動してもらうことを目的としている一方で、このようなイベントに参加する人は、もともと運動をしている人が多いように感じるのだが、冬に運動する人を増やすような講座やブースなど、考えていることがあれば教えていただきたい。

A : 運動が苦手な人が運動を始める場合、ウォーキングやランニングから始めることが多いと思う。そこから達成感を味わってもらうことで、別のスポーツに参加する機会が増えると思うので、冬でもできる室内競技の講座などがあれば、きっかけになるのではないかなと思う。

Q : ほかの事業とも連携していきたいということだが、リレーマラソンという形式が変わらなければ、連携できる事業によって会場を変えることは考えられるか。

A : 普段スポーツをしていない人が参加することが必要だと思うので、別の事業と連携していきたい。冬にリレーマラソン形式の大会を行っているところがほかにはないので、現在は県内の参加者がほとんどだが、観光コンテンツにしていくことを考えると、弘前城でやっていくほうがいいのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・冬にこのようなイベントをしようという発想、イベントを組み立てるプロセス、運営のしかた、どれをとっても素晴らしいと思う。
- ・どちらかという雪をマイナスのイメージで捉えている人が多い中、若い人達がそれを逆手にとって、楽しむコンテンツを作ろうとしているのが面白いと感じている。
- ・競技志向ではなく、運動が得意でない人が行って楽しかったと思えるような大会にしていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		78.2

● 11 : ウィンタースポーツ 2017 / 岩木山観光協会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : スポーツイベントと並行して、岩木山の地域で、地元の人が県外あるいは海外からの観光客を迎えるための説明会などをするのは考えているか。

A : 説明会の必要性は前から感じており、3年前から語学などの勉強会を行ったが、地元からの参加は少ない。この1、2年外国人観光客の招致など具体的に動き始めてわかったことは、必要なものは語学ではなく気持ちであり、受け入れることに慣れてきた旅館もあるので、そのような例を見てもらうことで、地元の人に勉強してもらいたいと思っている。

Q : このイベントだけに限らず、チューブそりやトレッキングなど、シーズンを通して楽しめるようなことは考えているか。

A : 岩木青少年スポーツセンターと連携して、チューブそりは事前に予約しておけば無料で貸し出しができ、ノルディックウォークで散策を希望する場合は、事前に予約してもら

えれば保険料等約1,000円でサポートできる体制を取っている。また、「健康と観光」を目的にして、3年前から少しずつ新たな取り組みを進めている。

Q：エアボードのレンタル料が1つにつき6,000円となっているが、購入するといくらなのか。

A：本体に空気入れやヘルメット、グローブを含めて約3万円である。協賛してくれる企業があり、物を提供することはできないということだったが、インストラクターとして、ワンランク上の人が来てくれることになった。

【主な意見】

- ・東京や京都などの観光に飽きたけれども日本に来たいと思っているような層を取り込めるようなツアーができるきっかけにしていきたい。
- ・岩木山観光協会で作成した9月、10月に実施される岩木山周辺のイベントチラシの中に1%システムの採択事業が含まれており、これらの団体が上手くつながってほしいと思う。
- ・スポーツだけでなく、嶽地区に行かないと食べられないグルメを開発したり、温泉をからめたりするなど、旅館とも協力しながら、ぜひ観光客を誘致していただきたい。

【採択結果】

合計点 68.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		68.7

●8：冊子「三大地区“地域の絆”」改訂版作製事業／三大地区地域づくり連絡協議会 【質疑応答（抜粋）】

Q：全面的な改訂ではなく、部分的な改訂にした理由を教えてください。

A：この冊子を初めて作製した平成24年度に、三大小学校の全児童に配布し、総合学習の「町探検」などに活用されたが、今の4年生以下の児童には配布されていない。また、この4年間でまちの状況も変わっているため、現在の内容に合わせた情報を取り入れ、地域の人や児童から募集した標語を元に作った「ジャンボかるた」を掲載する。もっと印刷部数を増やして町会回覧したいが経費がかかるので、小学生を中心に、教育に位置付けたものとして活用してもらいたいと考えている。

Q：小学生がいない世帯で、ぜひこの冊子が欲しいという人がいた場合、どのように対応するのか。

A：三大地区の全3,500世帯に無料で配布することは難しいので、今回は小学生への配布用と生涯学習の教材用で800部作製する。今後、もう少し多く作って有料にすることも団体内で相談していきたいと思う。

【主な意見】

- ・団体のメンバーだけでなく、いろいろな地域の人が冊子作りに関わり、関わった人たちが冊子を残しておきたいと思えるような工夫をしていただければ、地域の人に愛されるような冊子が出来ていくのではないかと思う。
- ・子どもたちの総合学習の時間に、地域の人が案内役をするなど、直接子どもたちとふれあえるきっかけづくりにも活用していただきたい。
- ・地図やお店の情報など短期間で変わっていく情報を、ホームページや地図サービスを活用して随時更新する方法と、数年に1度、紙媒体で改訂をしていく方法の両方とも行えばいいと思う。紙媒体は、情報が蓄積されていくので、どのように地域が変化していったかを追うことができる資料になると思う。

【採択結果】

合計点 74.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.1
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		74.2

● 7：コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」／NPO 法人 harappa

【質疑応答（抜粋）】

Q：観覧者の、リピーターと新規の割合はどのくらいか。

A：上映内容によって異なるが、アンケートの結果を見ると、大体リピーターが約6割、新規が約4割となっている。

Q：全国で行われているコミュニティシネマの運営方法など、団体で把握しているものの中で参考になりそうなものがあれば教えていただきたい。

A：ミニシアターを保有したり、映画祭を開催したりなど、幅広い上映形態がとられているが、自主上映で継続して行っているケースは珍しく、補助金終了後、多くの協賛金をもらうことが難しいので、全国的に見ても継続するためにみんな頭を悩ませている状況である。

Q：上映会を維持していくためには、動員数を増やす必要もあるかと思うが、そのための対策のようなことがあれば教えていただきたい。

A：上映会を知っていたものの、これまで都合が合わず足を運べていない層や、毎回難しくてもタイミングが合えば行きたいと思っている人もたくさんいると思うので、長く続けることで、そのような人たちをつなぎとめておきたい。さまざまな人に足を運んでもらえるように、いろいろな映画を上映していき、なるべく補助金が少なくても運営できる体制を作っていきたい。

Q：フィルムを提供する配給会社の選び方や、安くしてもらえるような交渉を行っているのかを教えていただきたい。

A：フィルムの貸し出しについて交渉する際は、直接配給会社に電話して、予算状況など

団体の現状を理解してもらいながら、少しでも安くなるように努力している。長年継続して事業を実施してきたことで、さまざまな配給会社の信頼を得て、理解していただいていると思う。

【主な意見】

- ・映画を見た後で心に残るような落ち着いた映画を見られるところが、県内でもあまりないと思う。そのような映画の上映を続けることは、弘前の文化を守るような部分もあると思うので、今までのように経費削減の努力をしながら継続していただきたい。
- ・弘前は、上映される映画の数が少なく、見たい映画があれば市外まで行かなければならない状況で、弘前で映画を見る人が減ってきているのを底上げしたいというのであれば、市外から参加者を呼び込むことも考えても良いのではないかと思います。
- ・今はDVDやインターネットなど、さまざまな手段で映画を見られることから、若い人は映画館で映画を見る良さを十分にわかっていないと思う。若い層を取り込むためには、まずは映画館で映画を見る楽しさをわかってもらえるような映画を提供したほうがいいのではないかと感じた。

【採択結果】

合計点 65.1点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.2
合計		65.1

●5：テクノ DE 合コン/テクノ DE 合コン運営委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：会場でアルコールを提供する場合、未成年の人への対策として考えていることがあれば教えていただきたい。

A：アルコールの提供は行う予定で、入場の際、全員に入り口でIDチェックを行う。

20歳以上の人にはリストバンドを巻いてもらい、お酒を購入する際にリストバンドを提示してもらうことで、未成年者にアルコールが渡ることを防げると思う。

Q：次回以降、もっと大きな会場で開催したり、屋外で事業を実施することも考えられるか。

A：今回は、ゲストのスケジュールの都合と場所の確保ということから最良の会場を選んだが、屋外でこのようなイベントをするのも非常に良いと思う。今回のゲストの中には、地方でさまざまなテクノイベントを実施している人もいるので、テクノで地域を活性化できるような展開につなげていきたい。

Q：事業名に「合コン」という言葉が使われており、単純にイベントに行きたい人が行けるかどうか迷ってしまうのではないか。

A：音楽イベントを楽しむことや、交流を楽しむことが目的であり、すべての人がイベントの対象で、もちろん既婚者でも一人でも入場できる。周知する際にきちんと明記しないと誤解を生む可能性があるので、気を付けてプロモーションしたい。

【主な意見】

- ・やはり「合コン」という言葉があることで、気軽には入っていけないように感じてしまうので、興味を持った人が入っていきやすいような言葉を使っていたきたい。
- ・この地域で何かしてみたいという人たちが目的を掲げて事業を行うことで、また芽が生まれて新しいネットワークが広がっていき、別の人が何かをするきっかけになれば、弘前にとって非常に良いことだと思う。
- ・イベント当日に土手町を歩いている人にも、イベントが行われていることがわかるように、発信の工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 66.7点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.0
合計		66.7

● 1 : DOG FES IWAKI/WON UP TSUGARU

【質疑応答 (抜粋)】

Q: 犬のフンの片づけをしないようなマナーが悪い人に対する啓発の目的もあるようだが、そのような飼い主にもイベントの情報を届けるための工夫があれば教えていただきたい。

A: 今の段階では、マナーが悪い人に対してというより、意識がある人たちの意識を少しずつでもより高くすることを考えている。今でも登録をせずに、狂犬病の予防注射をしていない人がいると聞いたことがあるので、そのような人が暮らしにくい環境になればいいと思う。

Q: 事業費の中でも、ドッグスポーツ大会のための賞品・景品への割合がかなり大きいですが、この経費をかけてまで大会を実施する必要性について教えていただきたい。

A: ドッグスポーツ自体は、しつけがしっかりできていないとできないこともあり、飼い主と犬の良好な関係を見せる良い手本になると思い、企画した。賞品は、知っているところに協賛をお願いしたが、今回は初めての試みなので協力を得ることができなかった。経費的にかなり厳しいこともあり、賞品の予算を組み入れたが、ゆくゆくは自立していけるように考えていきたい。

Q: 事業の目的は非常に良いが、大会の賞品や景品にかかる経費が大きいことが大変気になるので、もう少し経費を削減することは考えられるか。

A: 自分たちにとって賞品が高いという感覚ではなかったが、大会の趣旨に合わせて経費の削減を検討できると思う。

【主な意見】

- ・犬を飼っている人のマナー向上や糞に対する意識を高めてもらうという事業目的は理解

するが、大会のあり方について、補助金を使うことを考慮し、再検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 58.6 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点（宮川委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.8
合 計		58.6

9月19日審査結果（12事業のうち9事業）

採択とする事業	8事業
不採択とする事業	1事業

平成28年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成28年9月21日（水）

午後6時～午後7時50分

場 所：市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、安田委員、鴻野委員、兼平委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、木田委員
市民協働政策課 清藤課長、堀川補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、齋藤主査、阿保主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

9月19日に引き続き審査

《審査内容》

●12. Prosit/Prosit

【質疑応答（抜粋）】

Q：ファッションショーで使う衣装等の経費を自己負担とせず、団体が用意する理由を教えてください。

A：今回行うのはウェディングファッションショーであり、団体が衣装を全て購入し、イベント終了後は衣装を団体が全て保管して、次のイベントなどに活用することも考えている。

Q：観覧者の見込みが150人となっているが、県内各地に周知を図るのであればもう少し集客を見込めるのではないか。

A：たくさんの人に参加してもらいたくて、当初はヒロロでの開催を予定していたが、場所を確保できなかった。今回予定している会場の広さを考えて見込みを150人としたが、一度に200人、300人の入場は難しいと思う。各イベントの時間帯によって、人が入れ替わることで、参加者を増やすことはできると思う。

Q：この先、このイベントをどのようにしていきたいという思いや、弘前の若者に伝えていきたいことなど、目指す姿を教えてください。

A：次回のメインをファッションショーにしたいと考えており、モデルの年齢層を5、6歳から60代の男女にしたいと思っている。この事業から、もっと弘前にファッションの文化を伝えていきたい。

【主な意見】

- ・団体構成員がこれまで経験したことを活かして新しいことを実施し、若者に多様な経験

をしていただきたいという思いは理解するが、出演するモデルが自ら応募して自主的に参加するものであることから、出演者からの参加費の徴収等も検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 55.6 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.0
合 計		55.6

● 6 : 大自然を感じよう！秋に炊事にチャレンジだ！！ / 5-Between

【質疑応答 (抜粋)】

Q : バリアフリーに関する分野の事業を、大学の後輩に引き継いでいく見通しについて教えていただきたい。

A : 大学の授業の中でさまざまな障がいについて勉強してきて、障がいがある人とない人の橋渡しのようなことができればと思っていた時に、先輩たちが1%システムを活用して事業を実施したことを知り、自分たちでもやってみようと思った。もちろん、後輩には声掛けをするが、まずは自分たちが事業を行った結果を大学でプレゼンし、それを聞いて、自発的にやってみたいと思ってもらいたい。

Q : 事前に調理実習の予行を行っているようだが、実際に包丁を使ったり、火を使ってみた率直な感想を教えていただきたい。

A : 包丁やピーラーなどの調理器具を、障がいのあるお子さんに持ってもらうことはかなり不安だったが、結果的には行程どおりきちんと作ることができ、できたものをおいしそうに食べてくれて、やってよかったと思った。ゲームを入れながら調理方法を振り返ると、とても盛り上がったので、そのようなことも事業の本番につなげていきたい。

Q : 予定参加人数30人の内訳はどのようなになっているか。

A：団体構成員5名、障がいのあるお子さん5名、学生スタッフ10名、企画をサポートしてくれているNPO法人光の岬福祉研究会のスタッフ2名に、お子さんの保護者を想定している。

【主な意見】

- ・規模としては小さな事業ではあるが、障がいのあるお子さんに対してアクションをおこそうという気持ちを評価したい。
- ・1%システムに申請しなくても自分たちでできるくらいの補助金額かもしれないが、このような事業をやっていることを知ってもらい、少しでもこのような事業に参加するような思いを持ってもらうための申請であると思う。他団体にも、このような事業の影響を広げていただきたい。
- ・事前に調理実習を行うなど、計画がしっかりしている。知的や精神の障がいのあるお子さんが対象なので、的確な人数で、専門家の意見を聞きながら実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 74.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員10名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合 計		74.4

● 3：喫煙及び受動喫煙の害のない弘前市を実現するための活動／

青森県タバコ問題懇談会弘前支部

【質疑応答（抜粋）】

Q：本来は、いちばん喫煙の害について訴えかけたい喫煙者にチラシを手にとってもらい、シンポジウムに参加してもらうために、考えている工夫などあれば教えていただきたい。

A：講演会を開催しても、本当に聴いてもらいたい人にはなかなか参加してもらえないの

が実情である。チラシだけでなく、SNSやラジオ、記者会見などさまざまな方法で広報していくが、色んなツテを使って、一対一で面と向かって勧誘することが一番大事だと思っている。

Q：PM2.5の調査を行った施設や事業所に改善を求める必要があった場合、施設に対してどのようなかたちでアクションを起こすのか。

A：これまでも公立施設を中心に調査を行っており、改善の必要があった市町村には要望書を提出している。直接首長や担当者に会って要望したことで、改善された自治体もあった。

Q：PM2.5を調査できるような機械を持っている施設はあるのか。

A：問い合わせたところ、保健所には機械はあるが、貸し出しを行っていなかった。また、医師会で持っている機械では、PM2.5を測る機能が付いていないとのことだった。そのほかに問い合わせたところでは、市を含めて、機械を持っている施設がなかった。

【主な意見】

- ・たばこの煙が嫌でも、知り合いが近くで吸えば「やめて」とはなかなか言えずに我慢しているのが現状である。このような機会に、たばこの害についてみんなに知ってもらえればよいと思う。
- ・たばこを吸う人を一気にゼロにすることは難しいと思うので、いきなり「たばこを辞めましょう」ではなく、マナーの向上であったり、電子タバコ、蒸気タバコ、ガムなどを使って少しずつ辞めていけるような、知識などの面から啓発していくことも考えていただきたい。
- ・たばこは直接人の体や命に影響するだけでなく、火事になる大きな原因の1つでもあるので、そういう意味でもしっかりと事業を実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 88.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	9.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合 計		88.4

9月21日審査結果 (12事業のうち3事業)

採択とする事業	2事業
不採択とする事業	1事業

3次募集事業の審査結果 (12事業) 9月19日・21日審査合計

採択とする事業	10事業
不採択とする事業	2事業